

# 日刊 勤労千葉

82.3.20

No. 997

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五・六(公衆)〇五五(22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

『……訴えます』なる 恥知らずな 家庭郵送ビラ 弾劾！

## 新たな組織破壊策動粉碎！「本部」派一掃を！

権力の三里塚二期攻撃に呼応し、当局の不当処分攻撃をたのみとして、**勤労千葉への攻撃手を策す「本部」反動分子**

すべての組合員の皆さん。  
「本部」革マル反動分子は、破産的「千葉地本」の現状を塗りかかすものとして、第一一五回定中委での確認による復帰オルグと称して、「組合員の皆さんに訴えます」なる組織破壊のための雑文をわが勤労千葉の各組合員宅に送付しはじめた。われわれは、激しい怒りをもって、これを徹底的に弾劾する。今こそ「本部」反動分子を一掃し、デッチ上げ「千葉地本」解体の闘いを一層強化しよう。

恥知らずなファシストの居直り

「皆さんのこのかんの苦しみ、今後に対する不安は口ではいい表わせないことと思います。」などと、自らのくりかえしてきた悪虐非道と労働組合にあるまじき反動的・反労働者の行為・路線の犯罪性をヌケヌケと居直り、「さあ、三年たったから、復帰せよ」という、この破廉恥な組織破壊ビラを、われわれは、満腔の怒りなしには決して読むことができない。わが勤労千葉が分離独立して闘ってきた三年間、勤労「本部」革マル反動分子は、わが勤労千葉全組合員に対し一体何をやってきたのだ！ことごとく敵対し、平然とスト破りをやり、こともあろうに暴力で襲いかかり、更には、当局に処分要請し、権力に弾圧を願ひ、マル生分子・コロビ屋まで買ってでる卑劣な行為をくり返してきたではないか。これほどの、超反動的な仕打ちをくり返したあげくに、「さあ、三年たちましたから、自身の意志で『本部』に帰属せよ」とは、よくも言ったものだ！だからファシストだ！というのだ。

この三年間、勤労千葉のみならず全国の勤労組合員にありとあらゆる悪虐非道の「苦しみ」を与え、勤労の闘う伝統と組合の原点をつぎつぎと売り渡すことよって、勤労の行く末に大きな「不安」を押しつけているのは一体誰なのだ！「本部」革マル反動分子そのものではないか。

「当局が大量処分をかけた。だから、今が千葉勤労をつぶすチャンスだ」と絶叫する警察労働運動の推進者！「本部」革マルと土屋粹

あの「働こう運動」の反動方針を強行決定した第一一五回定中委で、勤労「本部」革マル反動分子の手先土屋粹は、「千葉勤労は大量処分を受けたから、今、ピンチになっている」「6・12

「みたいなことがあるので、『本部』へ戻りたくても戻れない者がいる」「今が、大々的なオルグ（組織破壊策動）をやるチャンスだ」と自らの危機にかられて絶叫した。

権力・国鉄当局の勤労千葉弾圧に絶対的信頼を置いている「本部」革マル反動分子とその手先にして始めて持ちうる発想である。わが勤労千葉組合員にあらんかぎりの集団テロ・リンチを働きながら、そして、権力・当局に弾圧を要請しながら「除名者以外はまだ『本部』の組合員である」などというファシスト性がどこの世界で通用するか。

思い起こせ！「七八年第三四回津山全国大会」での大会場での暴力を。「七九年、四・一七津田沼支部武装襲撃に代表される各支部への暴力襲撃を。「八〇年四・一五スト破り襲撃と当局への布施副委員長処分要請」を。「八一・三スト破り」「八一年六・一二デッチ上げ告訴」！権力への弾圧要請・当局への処分要請を。

思い起こせ！「6・12事件」公判で、「本部」革マル千葉への潜入分子・嶋田が何を言ったかを。「職場の正常化をはかるために告訴した」などと言っている。このような数々の悪業の積み上げの上に、第一一五回定中で、「本部」革マルと土屋粹は、デッチ上げ「千葉地本」の破産的現状を、インペイし、わが勤労千葉への組織破壊のための動員要請を全国の組合員に一切の責任を押しつけるものとして、絶叫したのである。

勤労千葉の戦闘性を解体し、「働こう運動」を強制せんとする攻撃を許すな

雑文の中での「職場と仕事と生活を守るため闘う勤労」に、今こそ「勇気と決断をもって復帰しよう」というに至っては、まさに言語道断である。検修

(裏面に続く)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！